

氏名 伊藤 健太郎 (中央区)

1. 新潟市の人口減少について

若い世代の首都圏への人口流出により、新潟市の人口は減少しています。人口流出に歯止めをかけるため新潟市は具体的に何をすべきであると考えられますか。

要旨

あらゆる施策の地道な積み重ねが必要

詳細

基礎自治体である新潟市にできる人口減少対策の特効薬はなく、あらゆる施策を地道に積み重ねていくことが必要だと考えます。具体的には、地元へ愛着を持てる教育の推進や、結婚・子育て支援、雇用を確保するための企業誘致、「新潟に住むなら車と家を持ちたい」といったニーズを満たす住宅政策なども必要だと考えます。

国によるダイナミックな地方創生政策を見据えた上で、こうした地道な取り組みを行っていくことが、人口減少を最低限に食い止める策だと考えています

2. 若年層へ向けた政策について

18歳から30代の若年層に向けた政策についてお聞かせください。

要旨

安心して働き、子育てができるまちづくり

詳細

「結婚して子どもがいるとお金がかかる」、「子どもができると、今の大切な仕事がおろそかになる」、「親戚が遠方において、子育てを夫婦だけでは不安」。そういった負担感を社会全体で支え合う政策が必要だと考えます。市として具体的にできることは、潜在的待機児童対策や放課後児童クラブの時間延長、長期期間中の食事提供、働き方改革の啓発、安心して相談できる窓口の紹介などを考えています。

3. 若年層の政治への無関心について

若年層が政治離れする一番の理由として、誰がやっても変わらないという意見がありますが、どのように感じていますか。

要旨

新潟市議会では、平成27年初当選議員を中心にスタートした主権者教育プログラムに取り組んでいます！（2018年マニフェスト大賞にノミネート！）

詳細

新潟市議会では、平成28年度から主権者教育プログラムを行っており、超党派の議員が議会として学校に出向き、模擬市議会などを行ってきました。この取り組みは、マニフェスト大賞にノミネートされるとともに、全国市議会議長会で先進事例として紹介されました。これまでに1,200人を超える児童・生徒を対象にプログラムを行っており、議員個人ではなかなか難しい「若年層の政治離れからの回避」を議会として取り組んでいます。

こうした取り組みを通じて、まずは議会や議員が何をしているのか、何のためにあるのかといった基本的なことを共に学び合うことが大切だと思っています。

また、議員個人としては、特に大学生と積極的に交流して、若者ならではの意見や要望を議会での発言に取り入れることによって、少しでも関心を持ってもらえたらと活動しています。

4. 新潟市とSDGsについて

新潟青年会議所では本年度、私たちの考える明るい豊かな社会の実現のため、誰一人も取り残されない、持続可能な目標であるSDGsを推進していますが、SDGsの17項目のうちどの項目に力を入れて具体的にどのように取り組んでいきたいと考えますか。

要旨

全部！と言いたいところですが、あえてイノベーション

詳細

人口減少社会、超高齢社会を前向きに捉え、成長していくためには、既成概念に囚われないイノベーションが必要だと考えます。様々な課題をAIやLOTなどで克服しようとしても、規制が厳しく、スピーディーな事業ができません。イノベーションのためには、規制緩和が欠かせず、新潟青年会議所に所属されておられるような若くて意欲のある皆さんから、「こういう事業をしたいけれども、こういう規制があってできない」といったアイデアや要望をどんどんお寄せいただいて、議場で議論し、規制を緩和して、イノベーション喚起のサイクルを回したいと考えています。

5. 中原市長の10の基本政策に対してどのように考えていますか。

10の基本政策のうち一つ選択し、お書きください。

要旨

子どもを産み育てやすいまち新潟

詳細

当面の課題として、最も重要な政策のひとつだと考えます。

この秋からスタートする幼保無償化、拡充が実現したこども医療費助成、全区設置が叶った病児デイサービス、待機児童対策など、ひとつひとつが重要かつ困難で、この変化の時にこそ市議会議員が市民の皆さんの声を聞き、議場で積極的に発言するべきだと考えます。

私自身も子育て世代のパパママと意見交換をさせていただく機会をいただいています。今後一層頻度を増やし、できるだけスムーズな事業展開がかなうよう、取り組みたいと考えます。